

和歌山大学クリエイティブ映像制作プロジェクト

ドキュメント制作ミッション

作成者・ミッションリーダー 吉村光

1. 目標

- スケジュール通りに作品を完成させる。
- NHK 全国大学放送コンテストの映像番組部門で入賞する。

2. 目的

ドキュメントとは、実際にあった事件などの記録を中心として、虚構を加えずに構成された映画・放送番組や文学作品の事である。クリエイティブ映像制作プロジェクトでは初代の先輩方が高校生のロケットの打ち上げに密着し、NHK 全国大学放送コンテストにおいて優勝という素晴らしい結果を残した。そこから現在に至るまで、クリエイティブ映像制作プロジェクトではドキュメント作品を作り NHK 全国大学放送コンテストに提出している。しかし、どの映像作品にも共通していることだが、映像作品のターゲットは誰か、また、ターゲットに作成者側が意図するメッセージを伝えられるかどうかは非常に難しい。自分達で作りたい作品を作るのはこちら側としては楽しいが、入賞することは難しくなる。求められるものと作りたいものが一致していればよいのだが、なかなか一致しない。そして、NHK 全国大学放送コンテストの映像番組部門で入賞することができたのも初代の一度のみである。

ドキュメント制作を通して、NHK 全国大学放送コンテストでは何を求められているかというニーズを読み取り、そのニーズにあった作品を作成することで、各個人の成長に繋がるのではないかと考えている。各個人の成長は、クリエイティブ映像制作プロジェクト全体のレベルアップにもなる。ドキュメント制作ミッションでは、ターゲットを明確にし、ニーズに合った作品を作ることを目的とする。また、ドキュメント作品は人々の心に残るものでなければならない。作成者側の意図がどのようにすれば伝わるのかを考えて作品を作る必要がある。

3. 主な活動内容

ドキュメント制作ミッションでは、カメラや広域マイクを利用して撮影と録音を行い、それらを編集してドキュメント映像作品を作り上げる。また、新入生たちに映像制作に関わってもらい、ドキュメントを作るにあたって必要な作品構成を共に考え、カメラや編集の基本操作などを学んでもらう。9月上旬に作品提出締切の「NHK 大学放送コンクール 映像番組部門」に作品を提出して入賞を目指す。

4. 具体的な活動内容

機材講習会

6・7月に基本的な機材の使い方を学ぶ為に行う。クリエ映像制作プロジェクトのCM制作ミッションでも挙げられているが、ドキュメントもCM制作と同じ時期に進められる為、一緒に機材講習会を行う。昨年度と同様、映像制作に関わった事のある1年生がほとんどいなかった為、カメラや広域マイクの基本操作、映像の編集方法を2年生が中心となり、1年生に伝える。2年生でも覚えていない操作や分からない操作があり、2年生同士でも教え合った。1年生にとっては映像制作の基本の取得、2年生にとっては復習することができた。

ミーティング

4～8月の間、週に1回、昼休憩か授業の1コマ分の時間を使って行った。内容としては、作品の構成を話し合ったり、進捗状況の確認や報告を行った。ミーティング前に何を話し合うかをあらかじめ伝えてからミーティングを行うようにしていたが、話し合いが進まないことも多々あった。

取材先・テーマ決め

3月～5月の間に取材先とテーマを決め、取材先にアポをとった。昨年度同様、3月からの開始と遅くなってしまった。今年度は高野山で僧侶をしているクルトさんに取材協力していただいた。

取材交渉

5月に企画書を作成し、取材先のクルトさんにプレゼンテーションを行った。この時点で、作品構成をしっかりと考える必要があったが、その後の撮影状況や実際にインタビューを行うと構成を変えざるを得なくなった。

構成決め

4～6月に作品の構成を考えた。6分以内の作品というわずかな限られた時間では起承転結を意識して構成を考えなければならない。この構成により、必要な映像が決まってくるのだが、ミーティングを行っていくうちに変化し、また映像を撮影してから予想と違った等が起こった。

撮影場所の許可申請

6月に許可申請に必要な書類を作成した。今年度の作品は高野山で撮影を行った為、撮影の許可申請を行い、撮影許可を証明する腕章を付けて撮影を行った。また、南海電鉄の高野山駅の映像も必要だった為、そちらにも許可申請を行った。

ロケハン

6月にロケハンを行い、撮影可能範囲を確認した。高野山では特別な許可がないと撮影不可の場所もある為、作品において必要な場所の確認を行った。また、取材協力者であるクルトさんが推薦する場所を教えて下さり、その場所も確認し撮影を行った。



撮影

6月～8月にクルトさん達の活動風景や旅行者の方へのインタビューの様子を撮影した。声を掛けた方はほとんどがインタビューへ協力して下さった。外部と大きく関わるドキュメント制作では礼儀正しく活動を行わなければならない。そういったところは成長できたと考えられる。また、クルトさんの1日を追うということで、宿坊に宿泊して撮影を行った。そのような経験は大学生活ではなかなか経験出来ない。各自が自費で宿泊し、出費自体は高額だったが、良い経験になったのではないかと考えられる。

編集

6月～8月に撮影した映像、音声の編集を行った。予定では早めに編集を終え、手直しに時間を割くつもりであったが、実際に本格的に編集が出来たのは8月であり、作品提出の締切である9月上旬の直前まで編集していた。早めの行動を心掛けていたはずが、全く行動が伴っていなかった。また、編集に使用するソフトの調子が悪く、編集が順調にいかなかった。そういった面も考慮して編集を行う必要があった。

第32回NHK全国大学放送コンテスト出品 9月上旬に6分以内のドキュメント映像作品を第32回NHK全国大学放送コンテストに提出した。提出締切の直前に作品が完成した為、もっと余裕のあるようにすべきだった。

5. 結果・成果

第32回NHK全国大学放送コンテストに出品した結果、予選を通過することは出来なかった。何故予選を通過することが出来なかったのか、その理由は6の今後の課題・展望で述べるとする。

ドキュメント制作を行う事により、外部の方へ取材依頼をする時に必要な手順が学べた。企画書の作成は勿論の事、撮影の許可を得る為に許可申請を行った。また、最も重要なのはその申請を行う際に、礼儀正しく振る舞う事である。礼儀というのは、社会に出ても必要な事であり、大学生活において、このような経験が出来るのは貴重な事である。ドキュメント制作により、その貴重な経験が出来たと考えられる。

6. 今後の課題・展望

今後の課題と展望を述べるにあたり、第32回NHK全国大学放送コンテスト映像番組部門の入賞作品と講評を引用する。入賞作品は、全国大学電車ごっこ選手権大会決勝戦・映画の足跡・ウイルスお掃除大作戦であった。また、講評は以下である。『まず発想・構成・演出面について。我々が番組を作る時にまず前提としてあるのは、「誰向けの番組か?」ということです。各種コンテストに参加される機会があるかと思いますが、誰向けかということ意識されるとテーマが自ずと明確になるかと思えます。仮に大学生向けなら、そのトピックに他府県の大学生が興味を持つか、目新しさがあるのか、制作前によくよく考える必要があります。制作前に意見を求めても良いかも知れません。二つ目は技術について。作品の中には、多彩な効果や機材を使ったものもいくつかありました。しかし、ネットにいくらでも超絶映像が転がっている時代です。生半可な映像では、最早誰も驚いてくれません。そこで提案なのですが、みなさんにたっぷりある「時間」を使った映像で勝負してはいかがでしょうか。地元のとおきの夕景や星空、四季折々の絶景は、時間の限られているプロはなかなか取りきれません。キャンパス内だけでロケした作品がほとんどでしたが、法律を遵守した範囲内で、是非みなさんしか撮れない映像を見せて下さい。意欲的な作品をお待ちしています。

ドキュメント制作は外部の方の協力が欠かせないものであり、特に今回の撮影では取材やインタビューを行う機会が多かった。協力していた方々は大学生活を送る中では関わる事がない為、貴重な経験となった。撮影や編集過程では新入生だけでなく上級生も技術を向上させることが出来た。しかし、作品の内容においては講評にもあるようにターゲットの不明確さ、大学生ならではという視点が足りない事が原因で入賞には届かなかったと考えられる。目的の欄でも述べたが、ターゲットの設定が甘かったと考えられる。高野山という事で、県外の方達に魅力を伝える設定にしていたが、どうすれば良さが伝わるかという事で、外国の方に協力していただいた。しかし、良さが伝わりづらい部分があった。そ

して、県外の方というよりは、外国の方へのメッセージにもなっていた。また、講評にある技術の面では、高野山は昨年開創 1200 年を迎え、取材の方が多く訪れていた。勿論、技術的にも優れている作品が多かった。大学生ならでは、和歌山大学の学生だからこそ作れる作品を目指してテーマを決めるべきであった。外部の人からアドバイスしていただくという事を来年度は実施していきたい。自分達だけでは気付く事の出来ない視点で物事を考えていきたい。更に、この2つを改善すべく、来年度はドキュメンタリー作品についての理解を深める為に、優れたドキュメンタリー作品を鑑賞し、どうすれば人々の心に響く作品を作る事が出来るのかをチームで話し合いたい。そして、来年度こそ入賞を目指したいと考えている。目標の設定に、スケジュール通りに作品を完成させる事があるが、それは当然とし、入賞に向けて上記に述べた事を実践し日々努力していきたい。

7. 感想

ドキュメント作品を作るのは難しいとミッションリーダーの引き継ぎの時に聞いていましたが、想像以上に難しかったです。大学生から動画制作を始めましたが、初めての事ばかりで、今回ドキュメント制作のミッションリーダーをさせていただきましたが、至らぬ所ばかりで申し訳なかったと思います。学業と両立しながらも更にドキュメント制作への勉強を行うべきであったと反省しております。私そしてチームとしての反省が来年度にも生かせるように協力していきたいと思います。

最後にドキュメント制作に協力して下さった先輩方、取材やインタビューに出演していただいたクルトさんを始めとする高野山に所縁のある方々、また予算審査会からアドバイスをしていただいたクリエの方々、日頃からクリエの運営に尽力してくださっている方々に感謝し、成果報告書を終わりたいと思います。本当にありがとうございました。